

仙北市 第三セクター等経営健全化方針

株式会社おもてなしせんぼく経営健全化方針

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和6年7月23日

作成担当部署 総務部事務事業総合調整室

2 第三セクターの概要

法人名 株式会社おもてなしせんぼく

代表者名 代表取締役社長 相原智仁

所在地 仙北市角館町西長野古米沢 30-19

設立年月日 令和4年9月1日

資本金 50,000 千円【仙北市の出資割合 79.98%】

業務内容

花葉館、西木温泉ふれあいプラザクリオン、仙北市角館西宮家、都市農村交流施設（田沢湖ハーブガーデンハートハーブ）、仙北市民浴場東風の湯の管理運営業務

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの市の関与

（1）経営状況、財政的なリスクの現状

株式会社おもてなしせんぼくは、仙北市の第三セクターであった株式会社花葉館、株式会社西木村総合公社、株式会社西宮家、株式会社アロマ田沢湖（以下、「第三セクター4社」という。）が合併し、令和4年9月1日に設立した。

株式会社おもてなしせんぼくの運営する施設は、平成17年に角館町、田沢湖町、西木村が合併し、仙北市が誕生する以前より各地域の集客施設としての役割を担ってきており、住民サービスを提供する場として、地域住民にとっても必要不可欠な施設として運営されてきた経緯がある。

ただ、時代の変遷とともに、競合施設の増加による集客力の低下や人口減少に伴う地域住民の利用の減少といった外部環境の影響を受け、近年の各社の経営状況は厳しいものとなっていた。加えて、令和2年以降は新型コロナウイルスの影響を受け、経営状況はさらに悪化している。

経営状況の変化を受けながらも経営維持を行ってきたが、第三セクター4社の借入金の合計は約3億円（令和4年3月時点）となっており、仮にコロナ禍から回復し、改善施策を実行したとしても、各社とも単独で借入金を返済するまでの水準まで経営を改善させることは難しい見込みとなっていた。

そこで、経営の合理化を図り、経営状況を好転させることを目的とし、第三セクター4社の新設合併を実施することとし、事業の選択と集中の実行、組織のスリム化、施設間で

の協力体制構築等（人員協力や送客等）の施策に着手することで、損益の改善を目指している。

（２）仙北市の関与

令和３年度から４年度にかけて、経営コンサルタントによる各社の現状分析及び事業計画策定、会社統合に向けての手続きに関する支援、経営改善計画策定のための支援を実施した。

財政的な関与としては、平成３０年に株式会社アロマ田沢湖に対して３０,０００,０００円の貸付を実行した。また令和４年には第三セクター４社の円滑な経営統合と抜本的な経営改善を図るため、市から２７２,１９９,５００円の貸付を実行し、第三セクター４社の金融機関からの借入金を繰上償還する支援を行った。

４ 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

市としては、抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討の結果として、会社統合による経営の合理化を図り、第三セクターを存続させることを既に判断している。令和４年には経営改善計画を策定し、現在は計画の実施途中段階にある。一定の住民サービスを維持するため、市が積極的に経営に関わりながら、事業の選択と集中による効率化を図ることとしている。

５ 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

当該法人及び市は、経営健全化のため、次の点に取り組むこととする。

- （１）販売単価の見直しや事業及び各施設間でのシナジー効果の発生を促す施策を実施することで売上の確保に努める。
- （２）事業採算の改善に努め、収益力の増加を図る。
- （３）施設の利用状況を分析し、営時間短縮や休館日、サービスの休止日を設ける等の営業体制を見直ことによりコスト削減を見込み、利益の改善を目指すとともに、従業員の働く環境を整える。
- （４）人員配置の見直しを行うことでコストの削減に努める。
- （５）営業スペースや事業の縮小により、オペレーションを見直すことで少ない人数で営業できる体制をつくる。

6 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額(千円)	
		R4 年度	R5 年度
	資産総額	97,997	51,668
	(うち現預金)	61,069	32,840
	(うち売上債権)	5,404	2,934
	(うち棚卸資産)	9,892	6,884
	負債総額	338,550	338,422
	(うち当該地方公共団体からの借入金)	296,200	293,200
	純資産額	-240,554	-286,754

損益計算書から	項目	金額(千円)	
		R4 年度	R5 年度
	売上総利益	172,609	321,785
	販売費及び一般管理費	245,123	370,909
	営業利益	-72,514	-49,124
	営業外収益	11,172	2,923
	当期純利益	-61,341	-46,201

- ・ R4 年度の決算期間は R4 年 9 月 1 日から R5 年 3 月 31 までの 7 か月